



# 2016年度 天文資料

平成28年度 第1号

平成28年 4月 1日

発行：佐世保市少年科学館  
佐世保市少年科学館



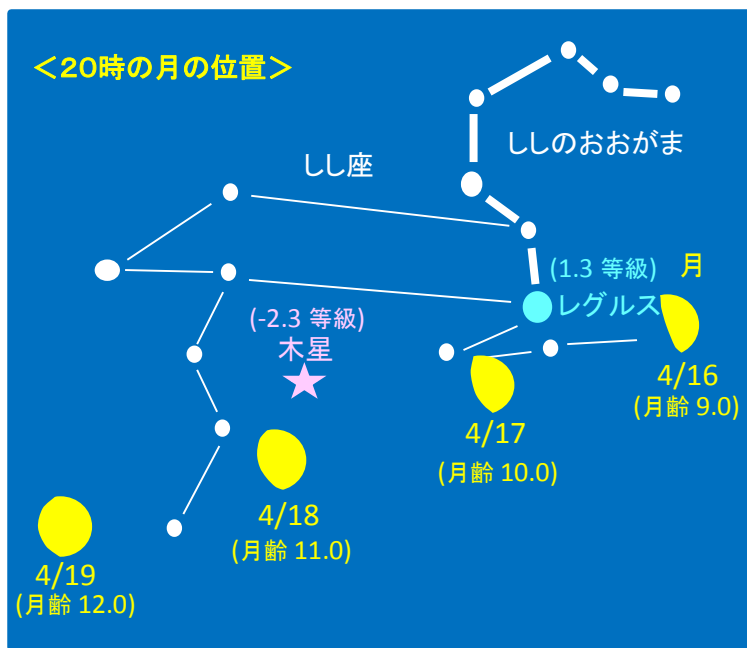
## <4月は惑星が見ごろ>

今、日没後暗くなり始めて最初に輝く星は木星、-2.3等級の明るさです。しばらくは、宵の観察しやすい時間帯に見るので、ぜひ観察してみてください。また、夜も遅くなると、今年5月末地球に接近する火星が姿を現し、さらにそのあとに土星が昇ってきます。この春は、惑星が見ごろです。今回は、この惑星たちの見え方を中心にご紹介いたします。

※宵：日が暮れてまだ間もないころ

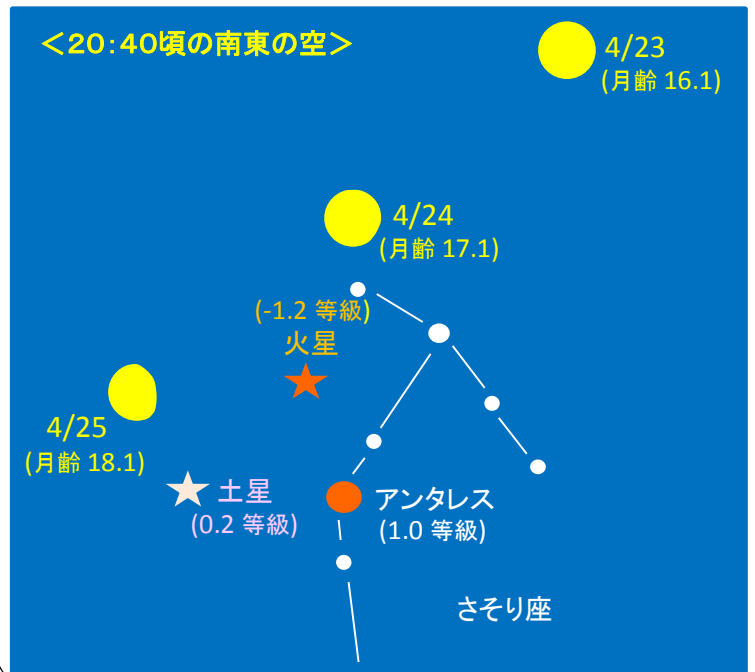
### 木星と満月前の月が接近(4/18)

春の代表的な星座しし座、この星座の中で一番明るいのはレグルスという1等星。しかし、今はそのしし座のすぐ近くに-2.3等級の木星があり、レグルスが目立たない存在になっています。この木星と、満月前の大きな月が4月18日、宵の空で並ぶようすが見られます。



### 満月過ぎの月と火星、土星の接近(4/24~25)

夜半を過ぎると、南東の空に夏の代表的な星座さそり座が昇ってきますが、1等星アンタレスの近くには地球に接近中の火星があり、お互いに赤さを競い合っています。近くには、土星もあり、さらに4月24日と25日には満月過ぎの大きな月が接近し、にぎやかな光景を見せてくれるでしょう。



### 水星が東方最大離隔(4/18)

水星は、約0等級と明るいものの、太陽の近くにあるために、非常に観察しにくい天体です。あの、コペルニクスさえ、「私の生涯で一番の心残りは、水星を見なかったことだ。」と言っているくらいです。その水星が、4月18日太陽から東に最も大きく離れる「東方最大離隔」となります。4月の中旬から下旬にかけて、日没後の西の空の開けたところで、観察してみましょう。水星は、地平線から20°(十分に伸ばした手の拳2つ分)以下の低空に輝いています。双眼鏡を使うと、見つけやすいでしょう。望遠鏡を使うと、上の方が欠けた半月状の水星が見られます。

